

病害虫防除技術情報第2号

平成 27 年 4 月 16 日
三重県病害虫防除所

**イチゴ・トマトの灰色かび病が増加しています！
圃場をよく観察し、早期発見・早期防除に努めましょう。**

1. 対象作物:イチゴ(施設)、トマト(施設・冬春作型)

2. 病害虫名:灰色かび病

3. 発生状況:多

(1)4月第2週の巡回調査では、イチゴにおける発病果率3.2%(平年0.5%)、トマトにおける発病果率2.3%(平年1.1%)と平年より多くなっています(図)。

(2)一般圃場での発生量は、平年より多い状況です。

(3)1か月予報(4月9日・名古屋地方気象台発表)によると、平年に比べ晴れの日が少ない予想であり、今後も灰色かび病の発生に好適な条件が続くと考えられるため、注意が必要です。

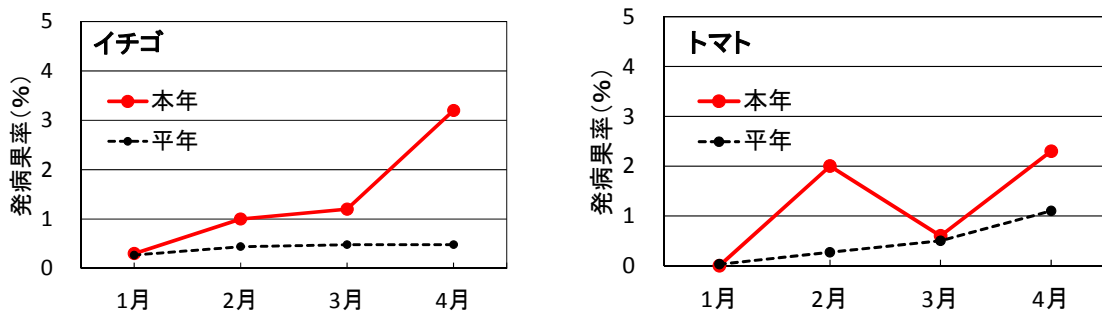


図 イチゴおよびトマトにおける灰色かび病発病果率の推移
※イチゴは県内12圃場、各圃場200果調査。トマトは県内8圃場、各圃場50株調査。
※平年は過去10年間の平均値。

4. 防除上の注意事項

(1)本病は20℃前後の温度と多湿条件で発生しやすいため、ハウス内の温度及び湿度管理に注意してください。特に、曇雨天が続く場合には循環扇や暖房機を稼働して、ハウス内の湿度を下げるようにしてください。

(2)発病した茎葉や果実は伝染源となるため、こまめに取り除いて圃場外に持ち出し、適切に処分してください。

(3)トマト果実では、胞子が発生しなくても果実表面に黄白色の小斑点(ゴーストスポット)が生じることがあります。商品価値を著しく落とすので注意が必要です。

(4)発病前の予防的薬剤防除が基本です。また、病勢が進行すると防除が困難になります。圃場をよく観察し、早期発見・早期防除に努めてください。

(5)薬剤防除では、薬剤耐性菌を生じる恐れがあるため、同一系統薬剤の連用を避け、作用機構の異なる薬剤でローテーション散布を行ってください。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。